

## ●宮城（貞山堀と津波）

### 【経緯】

貞山堀（貞山運河とも呼ぶ）は、阿武隈川から旧北上川に至る総延長49.0km（現存しているのは、そのうち46.4km）の日本一長い運河です。阿武隈川から松島湾に至る木曳堀、新堀、御舟入堀と、松島湾から旧北上川に至る東名運河と北上運河を総称して貞山堀と呼んでいます。

貞山堀は人工的に掘られた運河であり、古くから物資輸送などの目的で使われてきました。最も古い木曳堀は約400年前に建設され、その後御舟入堀、

明治に入り新堀、北上運河、東名運河と建設され、明治17年（1884年）までに完成したという、歴史的な施設とも言えます。この間、完成までに3世紀という長い年月を要し、伊達政宗が運河の大構想を持っていたことを偲び、政宗の諡（おくりな）である「貞山」から貞山堀と付けられたと言われています。

### 【津波による被害状況】

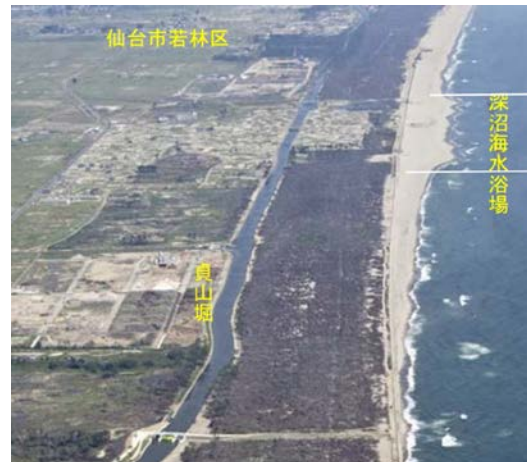
貞山堀付近の津波の被害状況を以下に示します。



貞山堀の位置



震災前（新堀付近、H22.9.29撮影）



震災後（新堀付近、H23.9.10撮影）

仙台河川国道事務所 HP <http://www.thr.mlit.go.jp/Sendai/index.html>

（「貞山運河の歴史を知っていますか？」 より）

（「明日へつなぐ」仙台湾南部海岸堤防復旧プロジェクト 海岸航空写真「震災前後の比較写真」 より）